

## 「今」という時を真剣に生きる

大本山總持寺単頭 柴田康裕

禅の教えに「百不当の一老」という言葉がございます。

これは、百回矢を射っても当たらなかつたものが、百一回目で見事に的に命中したということです。

この場合、的に当たらなかつた百本の矢は、決して無駄であったというわけではなく、むしろ百回の失敗を積み重ねてきたからこそ、百一回目の成功があつたのだということの意味します。

ただし、大切なことは、「下手な鉄砲も数撃ちや当たる」というように、ただ闇雲に射つた矢が、たまたま百一回目で当たつたというような、そんな偶然的なものではなくて、たとえ失敗であつたとしても、一本一本の矢を真剣に射つてきたからこそ、百一回目の成功であつたということです。「百不当の一当」、つまり「当たる」という字を使わずに、敢えて「一老」という、「老いる」という字を使うのは、そのためです。

因みに、「百不当」とだけ書いて、「一老」の字がない掛け軸を目にすることがございます。この場合は、当たるとか当たらないということは、さほど問題ではない、むしろ一本一本の矢を、真剣に、一生懸命に射るということこそが重要なのだということが強調されています。

仏道を修行するということから見れば、悟るとか悟らないということは、さほど問題ではない、一つ一つの修行を、真剣に、真面目に、ただひたすらに行じていくことこそが大切なのだということになります。

そして、それは私たちの日常生活においても、また同じようなことが言えるように思うのです。

成功するとかしないとか、幸せになるとかならないということだけが問題なのではなくして、成功や幸せの実現に向けて、その日一日を精一杯生きるということこそが、本当に大切なのだということです。

「結果は後からついてくる」とか、「努力は人を裏切らない」などという言葉もございます。

目先の結果に振り回されることなく、「今」という時を真剣に生きる、そんな実直な歩みを続けて参りたいと思います。